

2011年3月期第2四半期 決算説明会

2010年11月30日

本州化学工業株式会社
(証券コード:4115)

目 次

I. 当社の歴史と主要製品の変遷

II. 2011年3月期第2四半期実績

III. 2011年3月期 通期見通し

IV. 創業100周年へ向けて

Ⅰ. 当社の歴史と主要製品の変遷

当社の歴史と主要製品の変遷

由良精工合資会社(染色業・和歌山市)

本州化学工業(株)

年	1914年～1944年	1945年～1987年	1988年～現在
歴史	【戦前の由良精工全盛時代】	【戦後の苦難から 本州化学工業として再出発】 1955年 本州化学工業に社名変更 1987年 三井物産27% 三井化学27%	1988年 ビスフェノールA事業を 現・三井化学へ事業譲渡 ↓ 【製品ポートフォリオの組み換え】 特徴ある製品を市場に供給する ファインケミカルカンパニー
主要製品用途	ベンゼン(染料原料) アニリン(合成染料) ※1970年停止 フェノール(染料、殺菌剤、樹脂) ※1967年停止 ピクリン酸(火薬原料)	アジピン酸(ナイロン原料) ※1987年停止 ジフェニールアミン(ゴム薬) ビスフェノールA(樹脂原料) トリメチルフェノール(ビタミンE原料) メタクレゾール(農薬、酸化防止剤)	トリメチルフェノール(ビタミンE原料) メタクレゾール(農薬、酸化防止剤) 特殊ビスフェノール(高機能樹脂原料) ビフェノール(LCP原料) 電 材(半導体、LCD向け)

フェノール系誘導品に特化

本州化学工業

顧客

購入原料

フェノール
メタパラクレゾール
イソブチレン

フェノール系誘導品
(中間原料)

樹脂メーカー
フォトレジストメーカー
医薬品メーカー

得意のフェノール系誘導品
合成技術を活用

製品開発パートナー

独自技術をベースに特徴ある製品を市場に供給

コア製品

次の条件を満たす製品を**コア製品**と位置付け

- I. 成長する市場がある
- II. 独自技術が活用できる
- III. 世界または日本において高いマーケットシェアを有している



(数値は当社推定)

- ◆ビフェノール(液晶ポリマー原料) 世界生産能力トップ 約40%
- ◆フォトレジスト材料
- ◆クレゾール誘導品 TMP(ビタミンE原料)世界販売シェア 約50%
精製BHT 国内販売シェア 約70%
- ◆特殊ビスフェノール(高機能樹脂原料) BPF 国内販売シェア 約70%

2011年3月期 第2四半期 実績

2011年3月期第2四半期 連結業績

<単位:百万円>

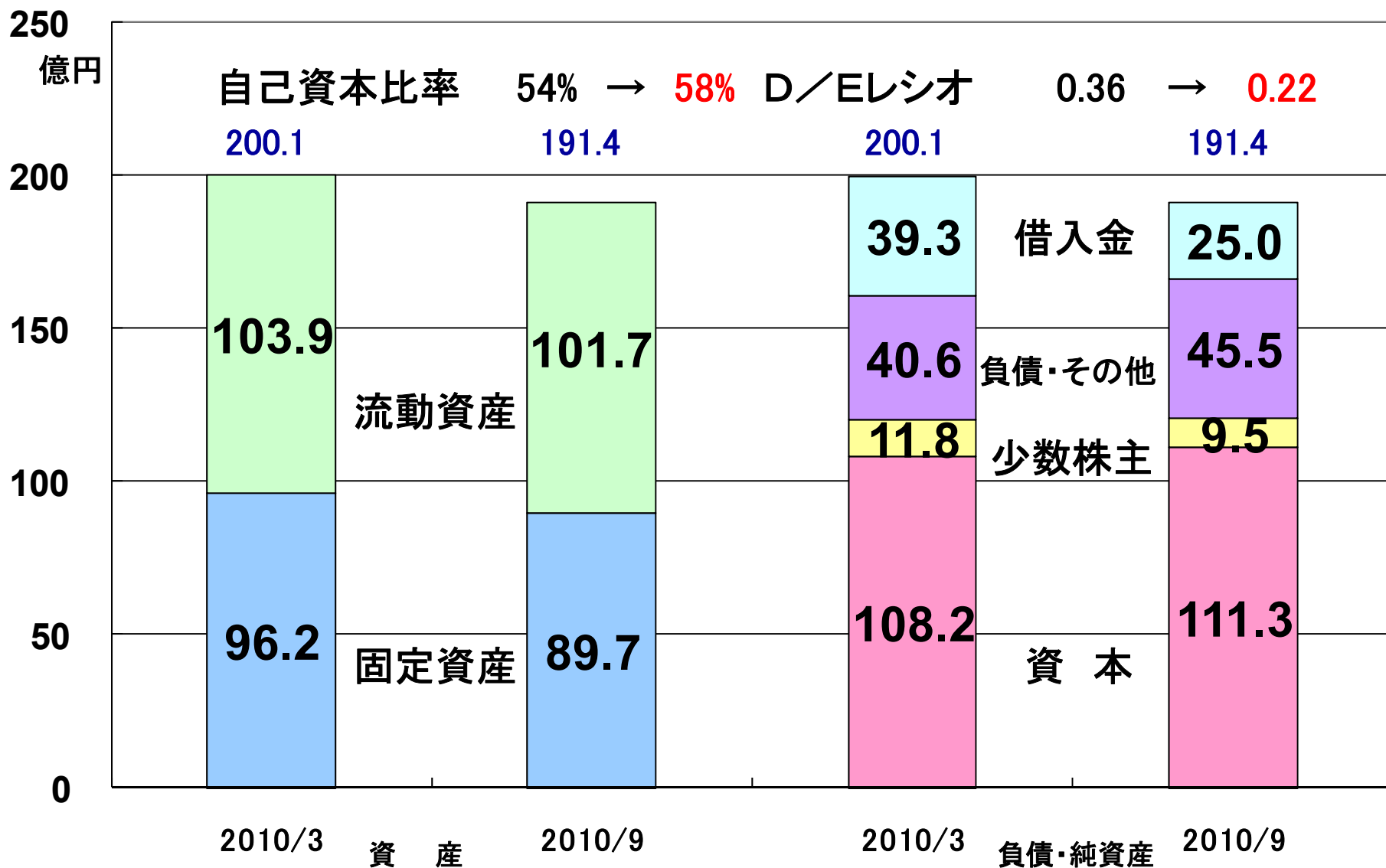
	2011年3月期 第2四半期 (10/4-10/9)	2010年3月期 第2四半期 (09/4-09/9)	対前年同期比
売上高	8,197	6,523	25.7%
営業利益	893	▲276	—
経常利益	1,006	▲9	—
当期純利益	550	▲101	—

2011年3月期第2四半期(2010/4月～9月) 事業概況

	年初	実績	増減
	a	b	b-a
営業利益			(億円)
化学品 (TMP、クレゾール類、 BPF)	1.3	3.9	2.6
機能材料 (電材、フォトレジスト)	4.1	6.2	2.1
工業材料 (特殊ビス、受託)	3.7	3.5	△0.2
その他	△ 5.2	△ 4.6	0.6
計	3.9	8.9	5.0

特記事項
①4-6月化学品、機能材料 両事業部で大幅に増益。
②7-9月は円高進展、TMP 減販等で概ね予算並み。 上期トータルは増益。
③特殊ビスフェノール需要好調 日本 10月から再稼動決定

貸借対照表(連結)



キャッシュフロー(連結)

前年同期よりもフリーキャッシュフローが増加し、借入金を返済

<単位:百万円>

	2010年9月期	2009年9月期	前年同期比
営業活動	2,083	1,336	746
投資活動	▲157	▲207	49
(フリーキャッシュ・フロー)	(1,925)	(1,129)	796
財務活動	▲1,642	▲1,125	▲516
その他	▲69	12	▲82
現預金増減	213	16	197

期末有利子負債	2,500	4,745	▲2,245
---------	-------	-------	--------

Ⅲ.2011年3月期 通期見通し

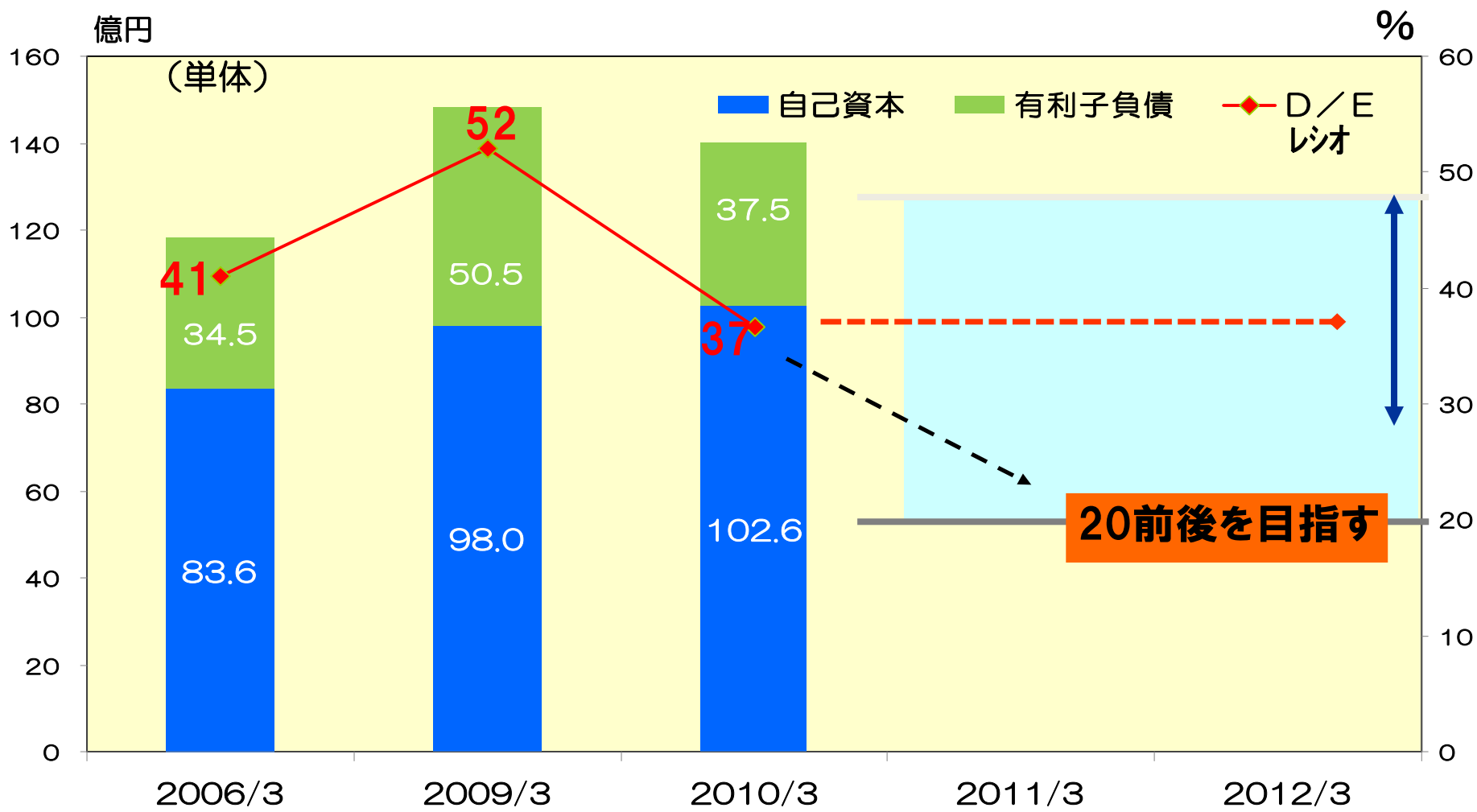
2010年度下期事業概況及び基本方針

事業概況		予算達成のための課題
市場の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界経済は先行き不透明、二番底の懸念あり。 ◆中国、ASEAN堅調、日・欧米は低成長。 (アジア市場で競合激化) ◆円高進展。日本市場で輸入品の競争力増大。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.コスト競争力の強化 2.新製品開発の加速
当社の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆化学品、機能材両事業部ともに国内市場の停滞感が強まる。 ◆ドイツ Hi-Bis社 特殊ビスフェノール フル生産 ◆和歌山工場で特殊ビスフェノールの生産再開 	<ol style="list-style-type: none"> 3.交易条件の確保 4.適正在庫の維持 5.安全・安定運転

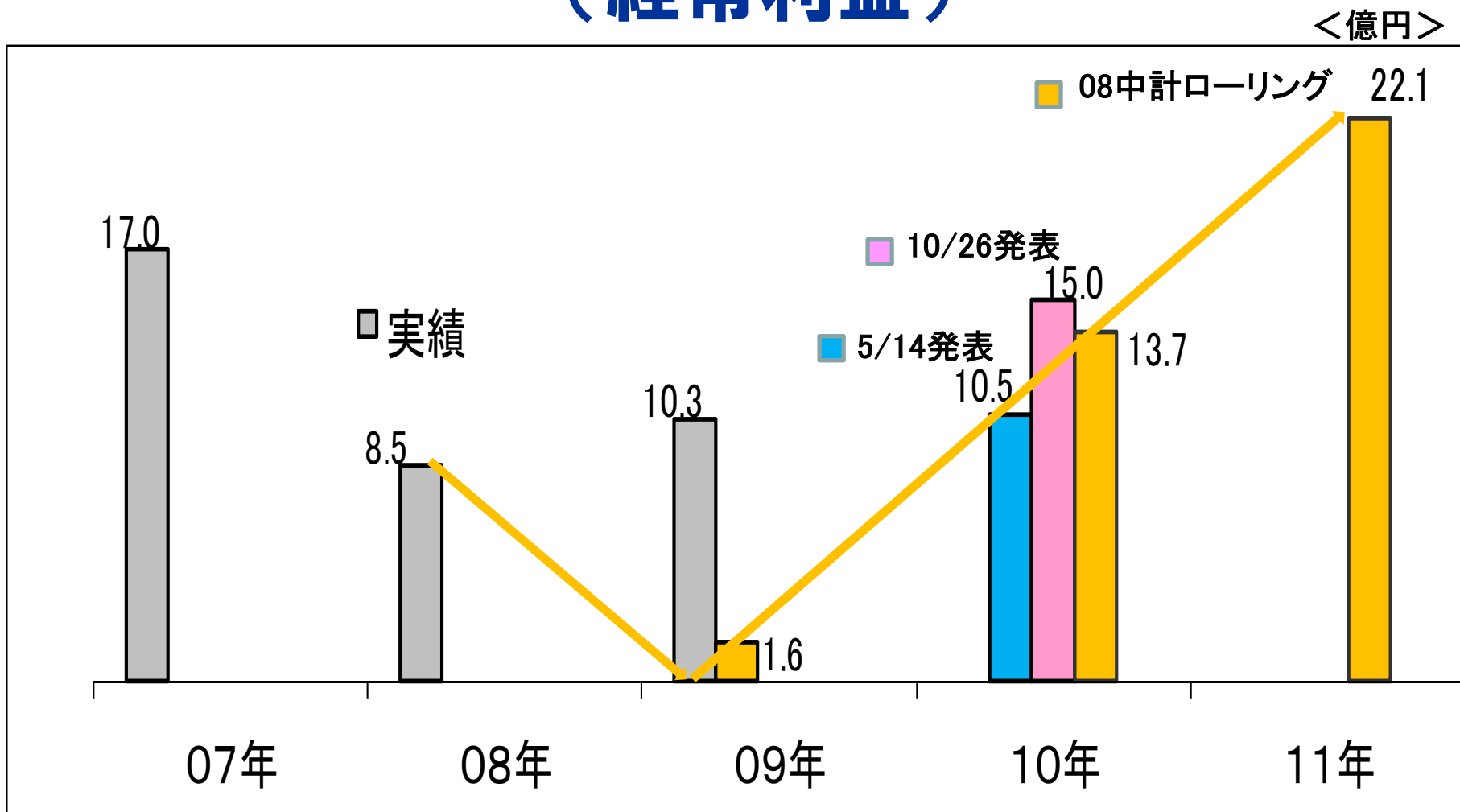
2011年3月期 連結業績目標

	2011年3月期	2010年3月期	対前期比
売上高	168億円	150億円	+12.0%
営業利益	14.5億円	5.4億円	+167.5%
経常利益	15.0億円	10.3億円	+45.8%
当期純利益	7.7億円	4.9億円	+58.1%
売上高経常 利益率(ROS)	8.9%	6.9%	+2.0%

健全な財務体質を堅持



08中計ローリング・実績比較 (経常利益)



IV.創業100周年(2013年11月)へ向けて

**ファインケミカルスペシャリストとして
持続的成長と拡大を目指す**

1.コスト競争力の強化

(1)『和歌山工場の損益分岐点稼働率60%の達成』
(2013年度)

固定費削減

*BEP60推進委員会 (*ブレイク・イーブン・ポイント)
(社長直轄の推進委員会設置)

- ・プラント統合による省人化
- ・間接部門省人化

現状 65% → 60% へ

1.コスト競争力の強化

(2)コア事業の競争力確保

①ビフェノールの世界No.1プロセス構築

②クレゾール類プロセス改善

③ビスFの新プロセス開発

2.海外事業展開の強化

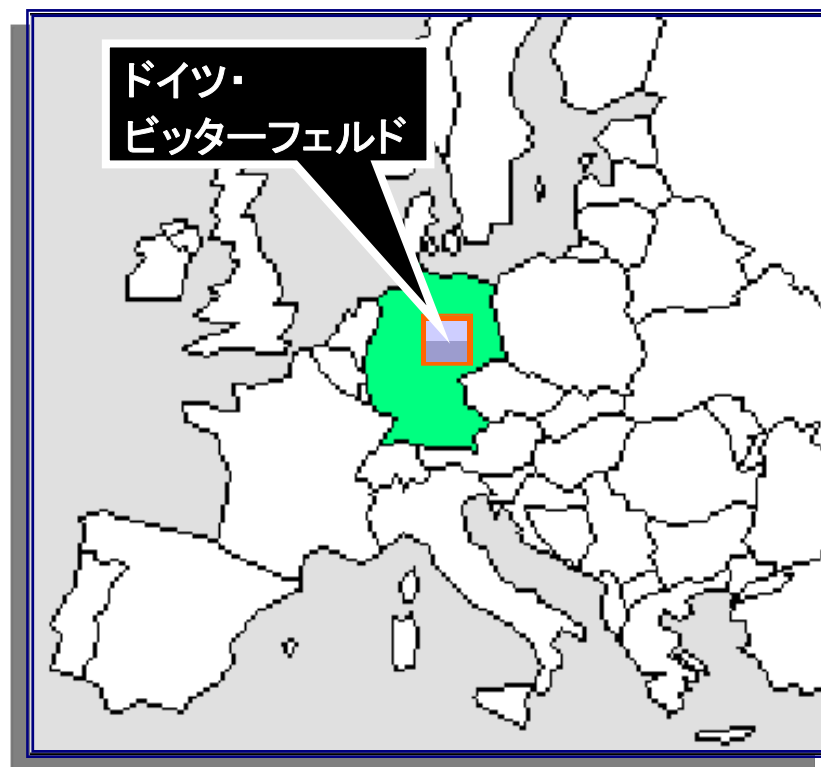
Hi-Bis GmbH (特殊ビスフェノール)

- ①ドイツBayer社向け特殊ビスフェノールの
現地生産拠点として2001年11月設立

【出資比率】 本州化学 55% 【設備能力】
三井物産 35% 5,000t/年
Bayer: 10%

- ②2004年12月販売開始

- ③2010年度見込 フル操業



3.次世代を担う新規製品

★新規製品

- ①光学フィルム向け新規ビスフェノール
- ②感光性ポリイミド材料
- ③高熱伝導性材料

<お問合せ先>

本州化学工業株式会社 経 理 部

TEL:03-3272-1482 / FAX:03-3272-1480

E-mail:ir@honshuchemical.co.jp

本資料における将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用下さい。